

宮城県・仙台市聴覚障害学生情報保障支援センター

外部団体として普通高校から大学までの支援

～ 高校から大学への移行支援を通して見えた聴障学生の変化と成長 ～

大学入試を控え、高校生も情報保障が欲しい！ 大学生活も充実させたい！ (H15.4～H20.3)

Aの思いが同級生に届いた。生徒有志や教師によるプロジェクトチームを作り、情報保障のPRビデオを作成し全校集会で放映。先輩の聴障学生とともに、聴障学生の会での県内実態調査に加わり情報収集し、支援センターに助言や協力を求める。

<高校・支援センター・生徒Aで支援体制のありかたを検討>

- ・ 交通費はPTAより支出
- ・ NTはOGと支援センターが分担
- ・ 学内に事務連絡担当とコーディネーター担当を置く
- ・ OG対象の養成セミナー、検討会を開く

Aが3年生の5月から派遣開始(週3回、延べ4時限)他の3時限はOGが担当
10月から(後期は受験対策のため増) [週5回、延べ13時限]OGとペアでNT実施

<高校がAの入学する大学へ働きかける(移行支援！)>

姉妹校のS女子大学に合格。担当教師がS大学に出向き、Aへの支援の必要性を訴える。

<大学・支援センター・生徒Aで支援体制を検討(初めて受け入れ)>

- ・ 入学式・ガイダンスに手話通訳を手配
- ・ 学内に手話サークルを立ち上げ
- ・ 学内NTセミナーを実施

Aが2年生まで週5コマ派遣、3年生から3コマに限定(学内支援を促す)

Aは、学生の会の会長として聴障学生から信頼を受け、リーダーとして積極的に活動する。穏やかで優しい性格のため、支援センターの聴障学生相談室のアシスタントとして後輩へのアドバイス等を担う。学内の手話サークルがNTの会として機能するにいたった影には、Aの努力はもちろん教師・学友の存在が大きい。高校から大学という多感な時期に周りとの人間関係が健全に築かれ、信じ合うことから仲間への思いやり、自主性が養われた。

支援センターは、聴障学生の情報保障のみを支援するのではなく、生きる力を育むよう支援をしていきたい。

同級生の聴障学生には間に合わなかったが、後輩に支援できて嬉しい。 OG

授業が楽しくなってきた。大学受験も頑張りたい。 A

生徒Aの成績が上がった、楽しそうに授業を受けている様子が見てとれる。教師



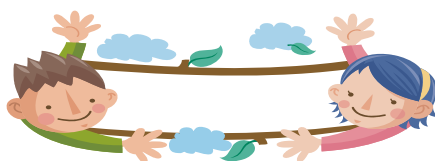
社会人となり振り返って

聴障学生から一言

情報保障が必要である課題は終わらないが、自分から要望を言えるのは、学生時代の活動が活かされているからだと思う。

高校の教頭(当時担当者)

情報保障活動で、生徒たちは互いに成長しあうことができました。



問い合わせ先

〒981-0908 仙台市青葉区東照宮1-17-1-116 高橋方
TEL 090-2020-4012 FAX 022-233-9571
E-mail: haken-center@ezweb.ne.jp

代表 松崎 丈